

令和 7 年度産業廃棄物不法投棄監視業務仕様書

本仕様書は、福島県が実施する令和 7 年度産業廃棄物不法投棄監視業務の業務委託に適用するものである。

(目的)

- 1 本業務は、休日又は平日の夜間に重点をおいた監視パトロールを実施することにより、産業廃棄物の不法投棄や不適正処理等の未然防止に努めるとともに、不法投棄現場の早期発見を行い、拡大防止や廃棄物の撤去等の行政指導等の円滑化を図ることを目的とする。

(定義)

- 2 この仕様書における用語の定義は次のとおりである。
 - (1) 産業廃棄物とは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号。以下「法」という。）第 2 条第 4 項及び第 5 項に規定するものをいう。
 - (2) 不法投棄とは、法第16条の規定に違反して、みだりに産業廃棄物を捨てることをいう。
 - (3) 野焼きとは、法第16条の 2 の規定に違反して、産業廃棄物の焼却を行うことをいう。
 - (4) 不適正処理とは、法第12条第 1 項に規定する「産業廃棄物処理基準」、同条第 2 項に規定する「産業廃棄物保管基準」、法第12条の 2 第 1 項に規定する「特別管理産業廃棄物処理基準」又は同条第 2 項に規定する「特別管理産業廃棄物保管基準」に適合しない保管、収集、運搬又は処分をいう。

(業務内容)

- 3 委託する業務内容は、次のとおりとする。
 - (1) 次の監視区域を管轄する各地方振興局長（以下「振興局」という。）の指示に従い、産業廃棄物の不法投棄、野焼き等の発見等を目的に巡回等の監視を行うこと。

所管地方振興局名	監視区域
県南地方振興局	白河市、西白河郡及び東白川郡
南会津地方振興局	南会津郡
相双地方振興局	浪江町、双葉町、大熊町、葛尾村

- (2) 振興局の指示に従い、振興局が不法投棄の防止を目的に設置する監視カメラの記録メディア及び蓄電池の交換等を行うこと（本業務は巡回等監視の一環として行うものあり、交換業務のみを行うものではない。）。

(実施回数等)

4 監視等の実施回数等は、次のとおりとする。

(1) 監視回数は、契約の日から令和8年3月31日までの間に258回とする。

なお、振興局ごとの基本の監視回数は次のとおりとする。

ア 県南地方振興局

令和7年4月から令和8年3月まで 148回実施
(4月は4回、5月～翌年2月は月14回、3月は4回)

イ 南会津地方振興局

令和7年4月から令和7年12月まで 52回実施
(4月は4回、5月～12月は月6回)

ウ 相双地方振興局

令和7年4月から令和8年3月まで 58回実施
(4月は4回、5月～翌年2月は月5回、3月は4回)

(2) 監視時間は、次の時間を指定することができるものとする。

ア 午後9時から午前5時までの8時間(休憩時間1時間を含む)

イ 午前3時から正午までの9時間(休憩時間1時間を含む)

ウ 午後3時から午前0時までの9時間(休憩時間1時間を含む)

エ 午前9時から午後6時までの9時間(休憩時間1時間を含む)

(3) 状況により月当たりの実施回数及び1回当たりの時間を変更※することがある。この場合、次により調整するものとする。

ア 月当たりの実施回数に変更となった場合は、翌月以降(場合によっては複数月の中でも可)の監視回数を調整する。

イ 1回当たりの監視時間が変更となった場合は、次回以降(場合によっては複数回の中でも可)の監視時間を調整する。

※ 変更する場合とは、通常「振興局が必要と認めた場合」で予め変更を指示することを想定しているが、受託者が必要と認めて行ったもので「振興局が事後的に必要と認めた場合」も含むものとする。これは、予め指示された監視時間の終盤において不法投棄等の行為を発見し、運搬車両等の特定のため監視時間を超えた調査が必要となったような場合で、かつ、これについて写真等、振興局が必要と認めるに足る資料がある場合や、非常災害等により、予め指示された監視時間に満たない時間で監視業務を中止する必要性が生じた場合等を指す。

(実施方法)

5 施方法は、次のとおりとする。

(1) 監視の実施人数は、1回当たり2名とする。

(2) 具体的な監視の実施場所、報告地点及び実施日等については、振興局が「産業廃棄物不法投棄監視業務指示書(様式第1号。以下「指示書」という。)」

を作成し、これにより事前に振興局と受託者で打ち合わせ後に、監視を実施する。ただし、緊急の場合は、指示書により指示した内容を変更し、電話等で指示する場合がある。

- (3) 監視は、指示書により指示した場所等を車両で巡回又は定点監視する等の方法で実施することとし、必要に応じてカメラ（赤外線カメラ等）、携帯電話（通報・連絡用）、無線機、双眼鏡等の機器を用いる。なお、監視車両には、産業廃棄物課が用意するステッカー等により監視車両である旨表示する。
- (4) 監視は、産業廃棄物（一般廃棄物との混合物（以下「産、一混合物」という。）を含む。）の不法投棄（量は小型トラック1台分以上）を主な対象とするが、野焼きその他の不適正処理や一般廃棄物についても発見した場合には対象とする。
- (5) 日々の監視業務の結果については、不法投棄等を発見等したか否かに関わらず、6の(1)の方法により原則として翌日までに所轄地方振興局に報告する。ただし、投棄物が廃油、廃酸、廃アルカリである場合や投棄量が著しく多量である等環境への重大な被害が直ちに生じるおそれがあると認められる場合には、これに限らず直ちに振興局に報告しその指示を受け対応する。なお、不法投棄等を発見等した場合は、次の点に注意し調査等を実施するものとする。

ア 不法投棄等の着手前又は実行中の事案を発見した場合

- (ア) 不法投棄等の着手前又は実行中の事案においては、不法投棄等を中止するよう注意を行う（危険を伴うと判断される場合は、注意をせずに直ちに警察に通報すること。）。
- (イ) 投棄者等の人相、特徴及び投棄者等が使用した車両のナンバー、車種、色、車両に記載された会社名等を記録し、後日、県が投棄者等を特定できるようにする。
- (ウ) その他特記事項を記録する。

イ 不法投棄等がされた現場を発見した場合

- (ア) 廃棄物の種類、現場の状況等を記録するとともに、現場の概略図等を作成し、後日、県が現場を特定できるようにする。
- (イ) その他特記事項を記録する。

ウ 残存事案を確認した場合

- (ア) 廃棄物の種類、現場の状況等を記録するとともに、現場の概略図等を作成する。写真を撮影する際には、経過が比較できるように同じ位置から撮影する。
 - (イ) その他特記事項を記録する。
- (6) 受託業務については、法第19条第1項に基づく立入検査その他特別な権限が授与されたものではないことに十分留意する。また、受託者の責任において安全に万全を期して特に事故のないように行うとともに適切な言動及び態度で接する。なお、発生した事故等に対する示談、補償、調停、届出等については、

全て受託者の責任において処理する。

- (7) 監視カメラの記録メディアと蓄電池の交換については、振興局の指示に従い、次の点に注意して行うものとする。

ア 記録メディアには、個人情報撮影されている可能性があるため、取扱いには慎重を期し、紛失しないようにすること。

イ 交換する記録メディアは、振興局から交換当日に預かり、交換後は速やかに振興局に送付するものとし、やむを得ず事業者が保管する場合は、金庫に保管するなど紛失しないようにするとともに、保管する時間は必要最低限の時間とする。

ウ 蓄電池は、重量が相当あるため取扱いには注意すること。

エ 監視カメラの設置場所を他に漏らしてはならない。

(報告)

- 6 県への報告は、次により行う（各様式の記載方法については別紙「記入上の注意」を参照のこと。）。

(1) 日報

上記5の(5)に基づく報告は「産業廃棄物不法投棄監視業務日報（様式第2号）」及び「産業廃棄物不法投棄監視状況報告書（様式第3号）」によりファックス又はメール等で行う。

(2) 月報

(1)の日報の内容をとりまとめ、「産業廃棄物不法投棄監視結果報告書（様式第4号）」を作成し、日報（所轄地方振興局から指示があり訂正等をした場合は訂正後のもの）及び撮影した写真等の記録を添付し翌月の10日までに（前述の訂正等の指示があった場合は、訂正後速やかに）所轄地方振興局に正・副本各1部（副本は産業廃棄物課用。正本の写しで可。）を提出する。

また、撮影に当たっては撮影時刻が表示されるように設定するとともに、新規発見や残存確認を伴わない巡回監視のみの場合でも、監視した主な地点の様子とその付近の案内標識をそれぞれ撮影し、写真等の記録を日報に添付する。

なお、日報及び撮影した写真等の記録は両面印刷するなどして、枚数の削減に努めるものとする。

(受託者の負担)

- 7 本業務に必要な人件費、車両、機材、機器等の維持管理等の経費は、受託者の負担とする。

(監視業務主任者及び監視業務担当者の選任等)

- 8 本業務を安全かつ円滑に遂行させるため、受託者は、次に留意し十分な経験と技術を有する監視業務主任者1名及び監視業務担当者を6名（所轄地方振興局毎

各2名)選任する。

なお、監視業務主任者は監視業務担当者を兼務することも可とする。

また、監視業務担当者については、合理的な理由があると認められる場合には、特定多数の者を選任することを妨げない。

- (1) 監視業務主任者は、監視業務担当者を十分指揮して業務を実施させること。
- (2) 監視業務主任者及び監視業務担当者については、やむを得ない場合を除いて変更しないこと。
- (3) 受託者は、委託契約締結後速やかに、監視業務主任者及び監視業務担当者に関する選任届及び経歴書を産業廃棄物課に提出する。(2)により変更する場合にも同様とする。

(車両、機材、機器等の届出)

- 9 本業務に使用する車両、機材、機器等については、その性能、規格等を明らかにする書類、写真等を事前に産業廃棄物課に届出する。変更する場合についても同様とする。

(守秘義務)

- 10 受託者は、本業務の実施に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

(諸法令の遵守)

- 11 受託者は諸法令を遵守し、業務の円滑な進捗を図るとともに、諸法令の適用及び運用については、受託者の責任と費用負担において行う。

(県職員の同行)

- 12 必要に応じ、監視業務に産業廃棄物課員又は所轄地方振興局職員が同行し、監視車両に同乗することがある。

(その他)

- 13 本仕様書に定めのない事項については、産業廃棄物課と受託者が協議して決定する。

産業廃棄物不法投棄監視業務指示書

(受託業者名)
(代表者氏名) 様

福島県 地方振興局長 印

令和 年 月分の監視業務を下記のとおり指示します。

番号	監視 月日	曜日	監視時間	監視箇所	指示事項 (現場概要、監視方法、調査事項、報告地点等)
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		
	/		: ~ :		

※ 1 監視箇所の詳細については別紙地図（必要に応じて既存の不法投棄・不適正処理地点等を明示したものとする。）のとおり。
※ 2 記入上の注意については、別紙「各様式の記入上の注意」を参照のこと。

産業廃棄物不法投棄監視業務日報

福島県 地方振興局長 様

(監視業務担当者名) 印
(監視業務担当者名) 印

監視業務の結果について、下記のとおり報告します。

番 号			
監視月日	/ ()	監視時間	: ~ :
監視箇所			
走行距離	k m (メーター表示 始: km 終: km)		

監視業務の経過			
番号	時 間	場 所	業務実施内容・気がついた点等

※1 監視箇所については地図（監視車両が通行したおよそのルートや発見した事案についての場所を提示）を添付すること。
※2 記入上の注意については、別紙「各様式の記入上の注意」を参照のこと。

報告地点の写真

場 所	
写 真	
場 所	
写 真	
場 所	
写 真	

※1 現場の状況が判る代表的な写真又はその場所に不法投棄がなされていないことを表す写真を1枚添付すること。その他必要があれば任意様式に写真を貼り付け提出すること。

産業廃棄物不法投棄監視状況報告書

番 号	—		
監視月日	/ ()	調査時間	: ~ :
調査箇所			

1 案件の種類	<input type="checkbox"/> 不法投棄 <input type="checkbox"/> 野焼き <input type="checkbox"/> その他 ()		
2 廃棄物の区分	<input type="checkbox"/> 産業廃棄物 <input type="checkbox"/> 産、一混合物 <input type="checkbox"/> 一般廃棄物		
3 対応の種類	<input type="checkbox"/> 現場の新規発見 <input type="checkbox"/> 中止指導 <input type="checkbox"/> 残存確認 <input type="checkbox"/> 監視 <input type="checkbox"/> その他 ()		
4 廃棄物の種類、量 (該当する <input type="checkbox"/> をチェックし、()内に量及びその単位を記入すること。)	<div> <input type="checkbox"/>燃 え 殻 () <input type="checkbox"/>汚 泥 () <input type="checkbox"/>廃 油 () </div> <div> <input type="checkbox"/>廃 酸 () <input type="checkbox"/>廃アルカリ () <input type="checkbox"/>廃プラスチック類 () </div> <div> <input type="checkbox"/>紙 く ず () <input type="checkbox"/>木 く ず () <input type="checkbox"/>繊維くず () </div> <div> <input type="checkbox"/>動植物性残さ () <input type="checkbox"/>ゴムくず () <input type="checkbox"/>金属くず () </div> <div> <input type="checkbox"/>ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず () <input type="checkbox"/>鉋 さ い () </div> <div> <input type="checkbox"/>がれき類 () <input type="checkbox"/>動物のふん尿 () <input type="checkbox"/>動物の死体 () </div> <div> <input type="checkbox"/>ばいじん () </div> <div> <input type="checkbox"/>そ の 他 () </div>		
5 土地の現況	<input type="checkbox"/> 山林 <input type="checkbox"/> 農地 <input type="checkbox"/> 宅地 <input type="checkbox"/> 河川・海岸 <input type="checkbox"/> その他 ()		
6 現場の状況 (環境への影響等)			
7 行為者等について			
8 対応経過			
9 その他参考となるもの			

※1 様式第2号の内容について事案ごとに作成すること。

※2 記入上の注意については、別紙「各様式の記入上の注意」を参照のこと。

(裏面)

写	
真	
見	
取	
図	

※ 現場の状況が判る代表的な写真を1枚添付すること。その他必要があれば任意様式に写真を貼り付け提出すること。

(表面)

令和 年 月 日

福 島 県 知 事 様
(福島県 地方振興局経由)

令和 年 月分の監視業務を下記のとおり実施しましたので、日報その他関係書類を添えて報告
します。

[illegible]

(裏面)

[今回発見分の対応件数]

		産業廃棄物(件)	産、一混合物(件)	一般廃棄物(件)	合計 (件)
不法投棄	発見・調査				
	中止指導				
	その他				
	小計				
野焼き	発見・調査				
	中止指導				
	その他				
	小計				
その他	発見・調査				
	中止指導				
	その他				
	小計				
合計					

※ 記入上の注意については、別紙「各様式の記入上の注意」を参照のこと。

各様式の記入上の注意

令和7年度産業廃棄物不法投棄監視業務仕様書で示す各様式の記入方法については下記のとおりとする。

なお、以下の説明において、「産業廃棄物不法投棄監視業務指示書(様式第1号)」は「指示書」、「産業廃棄物不法投棄監視業務日報(様式第2号)」は「日報」、「産業廃棄物不法投棄監視状況報告書(様式第3号)」は「状況報告書」、「産業廃棄物不法投棄監視結果報告書(様式第4号)」は「結果報告書」と省略して表記する。

1 「産業廃棄物不法投棄監視業務指示書(様式第1号)」

(1) 「番号」欄は、次により付番するものとする。

番号は4桁とし、先頭の番号は各地方振興局毎の固有の番号とする。次の3桁は、001番から順に通し番号を実施日ごとに付するものとする。なお、各地方振興局の固有番号は次のとおりとする。

県南：3 南会津：5 相双：6

〔例1：県南地方振興局の場合〕

4月分→3001～3004 5月分→3005～3018 … 3月分→3145～3148

〔例2：南会津地方振興局の場合〕

4月分→5001～5004 5月分→5005～5010 … 12月分→5047～5052

〔例3：相双地方振興局の場合〕

4月分→6001～6004 5月分→6005～6009 … 3月分→6055～6058

(2) 「監視月日」、「曜日」、「監視時間」の捉え方については、例のとおり開始時間を含む曜日をその曜日とすること。

例：開始が3月2日土曜日午後9時、終了が3月3日日曜日午前5時の場合

監視月日→3月2日 曜日→土曜日 監視時間→21:00～5:00とする。

2 「産業廃棄物不法投棄監視業務日報(様式第2号)」

(1) 「番号」、「監視月日」、「監視時間」及び「監視箇所」欄は、「指示書」に記載された番号等を記入すること。

(2) 「監視業務の経過」欄は、次により具体的な監視業務の経過について記入すること。

ア 監視している市町村や路線が変わるなど、区切り毎に欄を変えて監視の時間、場所及び対応内容について記入すること。

イ 状況報告書の作成を要する事案が新たに発見された場合は、「番号」欄に番号を記入すること。なお、同じ路線等で複数の報告事案が新たに発見された場合は、欄を別にして記入しそれぞれに番号を付すこと。

(3) 状況報告書の作成を要する事案とは、令和7年度産業廃棄物不法投棄監視業務仕様書5(4)に示す不法投棄等をいう。

(4) 撮影に当たっては撮影時刻が表示されるように設定するとともに、新規発見等を伴わない巡回監視のみの場合でも、監視した主な地点の様子とその付近の案内標識をそれぞれ撮影し、写真等の記録を日報に添付すること。

3 「産業廃棄物不法投棄監視状況報告書(様式第3号)」

(1) 「番号」欄は、「日報」の「番号」欄の番号を記入し、枝番号は「日報」の「監視業務の経過」の「番号」欄の番号を記入すること。

(2) 「調査時間」欄は、実際に現場を調査した時間を記入すること。

(3) 「調査箇所」欄は、発見場所の具体的な住所等を記入すること。住所がわからない場合は大字又は字名までで可とする。

(4) 「1」～「9」の項目について調査すること。特に、裏面の「見取図」は後日県が現場に到達できるように、特徴のある目印や目印からの距離など詳細に記入すること。

(5) 振興局から指示のあった不法投棄等現場において、対象物を確認した場合は、「残存確認」にチェックを入れ、草木等により確認できなかった場合は、「監視」にチェックを入れること。

4 「産業廃棄物不法投棄結果報告書(様式第4号)」

(1) 上表の「対応件数」欄の「残存」欄は、指示書で事前に示された不法投棄現場等を監視した場合に件数として計上し、「今回発見」欄は今回新たに発見し、かつ状況報告書の作成を要する事

案現場の件数とする。

- (2) 「今回発見分の対応件数」は、今回新たに発見した不法投棄等の現場のうち、状況報告書の作成を要する事案現場を各区分に分けた件数とする。